



12
4366
I

12
4366
I

源氏物語大意
抄源氏物語のわり
家花名も情と喜
女意の人をして仁義又常
の及ぶ引の道は中道
実相とゆゑ一八乃乃法



文とそそ世の若根と成
や一先んと其夫の胎を
陰陽のちひひと先
男女乃若恋と云はれ
そそ人をよままこ
ひりまぬされハ幸の乃

たしく世のつらるるに
ぐべうのりよわ我世の
責の初りて世を何
のたにあり一先固よま
しれ程り成ゆとまじ
中庸のたふかし世にあり

わづらひの巻一とついでい
しんや天台六十巻の巻
そとを教とす惟を問天右
三辰うけさるゆゆりて廿日
帖に書はゆゆりなうと死
おぼゆゆりなうと死

源氏物語目録

桐花介 ちよあ

うめあみ 夕うゆ

あはれ まつむね

紅雲安 花のあん

あまひ	あまひ
花ちり星	す海
何うー	身あつ
よりのみぬ	せまや
法合	松く也
ふすま	軽ふ
乙女	あろ
まのね	こま
あつ	さあ
あつ	あつ

<p> 見えき すれりら 歳のうら あり下 よこあ 夕三り まほろ ねんい ちし眼 あけき </p>	<p> 藤えり海 樹くえ わるう上 柏木 毛むじ 御法 舟文 竹川 赤う本 坊きひ </p>
---	---

やうり本

赤茶

うた弁

うたふ

子うらひ

差れさ橋

五千四帖

